

英語教育学サブプログラム

専門科目(英語教育学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OABALA1	英語教育学IA	1	1.0	1・2				本講義では、英語教育学に関わるプロセスや学習、指導、評価について検討する際の基盤となる研究法の理論と実践を学んでいく。特に、研究デザイン、オープンサイエンスに向けた手法などを概観し、英語教育学に関わる適切な学習、指導、評価の質を高め、またそれを実現するために必要な教員養成・研修のあり方などについて、講義と討論を通して、検討していく。	西暦偶数年度開講。 対面 授業形態(オンライン・対面など)については、開講1週間前までに、manabaで通知する。
OABALA2	英語教育学IB	1	1.0	1・2				本講義では、音声言語情報のやり取りに関わるプロセスや学習、指導、評価についての理論と実践を学んでいく。特に、適切なやり取りを行う力や、やり取りに影響を与える要因などを概観し、スピーキング力やコミュニケーション能力を高めるための指導や学習、評価、またそれを実現するために必要な教員養成・研修のあり方などについて、講義と討論を通して、検討していく。	西暦偶数年度開講。 対面 授業形態(オンライン・対面など)については、開講1週間前までに、manabaで通知する。
OABALA3	英語教育学IIA	1	1.0	1・2	春AB	月5	柳沢 明文	本講義では、語彙学習の研究に関連した論文や書籍を読み、議論することを通して、効果的な英語教授法に関する知見を深める。また、個人差や教材、学習活動の性質などが第二言語学習に与える影響を学ぶことを通して、研究知見の効果的な学習指導への応用について考察する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンライン・対面など)に変わることもある。詳細はmanabaにて通知する。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALA4	英語教育学IIB	1	1.0	1・2	秋AB	応談	平井 明代, 小野 雄一, 小泉 利恵, 土方 裕子, 柳沢 明文, 末森 咲	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、英語の「読み」の理論と実践研究の諸問題を考察し、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンライン・対面など)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALB1	英語教育学IIIA	1	1.0	1・2				本講義では、第二言語習得における心理に着目する。まず学習者の動機づけや自己効力感等の心理要因に着目し、これまでどのように研究が行われてきたかを概観する。そして、教師の動機づけやウェルビーイング、レジリエンス等、教師の心理に関する研究についても触れる。また、学習者、教師両者を対象とする研究に触れることで、教育現場での実践に活用できるようになることを目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABALB2	英語教育学IIIB	1	1.0	1・2				本講義では、第二言語習得における質的研究について学んでいく。まず質的研究の背景を学んだ上で、様々なアプローチを確認する。主要な国際ジャーナルにおいて、どのように質的研究が実施されているか確認し、傾向を把握する。その上で、実際のデータ収集、分析の進め方を学ぶ。また、各自の研究テーマに基づいた上で、短いインタビューを行い、書き起こしやコーディング等を実施する。自身の研究において、必要であれば、質的な方法を活用できるようになることを目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABALB3	英語教育学IVA	1	1.0	1・2	春AB	金4	末森 咲	本講義では、第二言語習得における心理的側面に着目する。動機づけやウェルビーイング等について、これまでどのように研究が行われてきたかを、理論的背景も含め、確認していく。その上で、昨今の研究論文に目を通すことで、実際の研究例に触れる。また、学習者、教師両者を対象とする研究に触れることで、教育現場での実践に活用できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABALB4	英語教育学IVB	1	1.0	1・2	秋AB	金4	末森 咲	本講義では、第二言語習得における質的研究について学んでいく。まず質的研究の背景を学んだ上で、様々なアプローチを確認する。その上で、実際のデータ収集、分析の進め方を学ぶ。また、各自の研究テーマに基づいた上で、短いインタビューを行い、書き起こしやコーディング等を実施する。自身の研究において、必要であれば、質的な方法を活用できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。 対面

OABALC1	英語教育学VA	1	1.0	1・2					本講義では、英語教育学の論文を読みこなすために必要な評価理論や研究手法についての基礎的な知識を身に付けることを目標とする。研究の妥当性と信頼性についての理論や研究方法について、主にR言語を使って、統計手法をハンズオンで学ぶ。講義や実践を交えながら、その分析手法の結果の解釈に関して考察していく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンラインに変更する。Manabaで通知する。 西暦偶数年度開講。 対面
OABALC2	英語教育学VB	1	1.0	1・2					本講義では、英語教育学の論文を読みこなすために必要な評価理論や研究手法についての応用的な知識を身に付けることを目標とする。自身の研究に必要な分析に活用できる知識を養うために、理論だけでなく、様々な統計手法を、主にR言語を使ってハンズオンで学ぶ。講義や実践を交えながら、その分析手法の結果の解釈に関して考察していく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンラインに変更する。Manabaで通知する。 西暦偶数年度開講。 対面
OABALC3	英語教育学VIA	1	1.0	1・2	春AB	木4	平井 明代		本講義では、教授方法の違いによる言語の伸びの測定や認知能力の心理測定についての理論を学んでいく。Rなどのソフトを使った基本統計、t検定や分散分析、ノンパラメトリック検定、回帰分析、因子分析など、論文によく使われる手法を学び、論文の結果の解釈ができるようにする。また、自ら、データ分析を行ない、研究が行えるような知識と技能を身に付けることを目標とする。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンライン(オンディマンド、リアルタイム配信))に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALC4	英語教育学VIB	1	1.0	1・2	秋AB	木4	平井 明代、柳沢 明文		本講義では、教授方法の違いによる言語の伸びの測定や認知能力の心理測定についての理論を学んでいく。古典的テスト理論から項目応答理論、効果量の測定、一般化可能性理論、構造方程式モデリング、メタ分析などさまざまな現代のテスト理論とその手法について関連文献を読み進めながら知識を深めていくことをねらいとする。その中で必要な統計手法の実践や実際にその手法が使用されている文献を探ることで、理論だけでなく実際に研究に活用できるようになることを目指す。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信))に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALD1	英語教育学VIIIA	1	1.0	1・2					本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、多読、多聴、語彙、発音についての教室外学習、ダイアログ、日記、オンライン素材、ゲーミフィケーション、ソーシャルメディア、交流サイトについて概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信))に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALD2	英語教育学VIIB	1	1.0	1・2					本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、PBL学習、PBL協働学習、自律的学習、エコロジ、ビデオ制作についての教室外プロジェクト、海外研修、異文化遭遇、教員養成、文化的利益、ホームチューターなど母語話者との交流について概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信))に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALD3	英語教育学VIII A	1	1.0	1・2	春AB	金3	小野 雄一		本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、コンピュータを活用した学習、CALLからTELLへ、デジタルという文脈、ハードウェアの役割、リスニングスキル、スピーキングスキル、リーディングスキル、デジタルテキストについて概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信))に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALD4	英語教育学VIII B	1	1.0	1・2	秋AB	金3	小野 雄一		本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、ライティング支援、協働ライティング、視覚情報の役割、マルチモーダルな学習、仮想的な学習環境、協働的プレゼンテーション、若者とテクノロジー、安全と子供たちの保護について概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信))に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面

OABALE1	英語教育学IXA	1	1.0	1・2					本講義では、バイリンガル環境で育てられた子どもがどのように読み書き能力を発達させるのか、音韻・語彙・文・言語選択の各観点から検討する。また第二言語の読解にはどのような要素が関わるのか、さらに読解中にはどのような処理が行われるのか、第二言語読解プロセスを測定するための手法について概観した上で、効果的な読解指導への応用について討議する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンラインダイヤモンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALE2	英語教育学IXB	1	1.0	1・2					本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生に対して、英語教育学の理論および実証研究を概観し、研究および実践上の指導的役割を果たし得る学識と能力を培う内容を講義する。特に本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、理論的および実証的研究成果や知見をもとに、学習者の言語や認知的な発達をふまえた言語能力および伝達能力の教授可能性や方法論を考察する。	14条対応学生のみ履修可 西暦偶数年度開講 西暦偶数年度開講。 14条対応
OABALE3	英語教育学XA	1	1.0	1・2	春AB	水2	土方 裕子		この授業では、教授法の効果検証、学習者の読解方略を測る質問紙調査、リテラシーの発達を追跡するケース・スタディ、心理言語学的手法を用いた読解プロセスの検証など、読解研究に必要な研究手法を概観する。また応用言語学や心理言語学のジャーナルから最新の読解研究論文を読んだり、実際の読解テストを分析したりすることで、第一言語読解と第二言語読解の違いや第二言語読解の特性を説明できるようになることを目標とする。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンラインダイヤモンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALE4	英語教育学XB	1	1.0	1・2	秋AB	応談	平井 明代, 小野 雄一, 小泉 利恵, 土方 裕子, 柳沢 明文, 末森 咲		本講義では第二言語リーディングに関するリサーチ・シンセシスやメタ分析を遂行した論文を読むことにより、効果的な英語教授法に関する知見を深める。またリサーチ・シンセシス及びメタ分析の実施方法を理解し、データベースを使用した文献検索やコーディングなどの過程を体験し、受講生自身の研究テーマに近い内容で実際にリサーチ・シンセシスやメタ分析ができるようになることを目標とする。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンラインダイヤモンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALF1	英語教育学XIA	1	1.0	1・2					本講義では、語彙学習の研究に関連した論文や書籍を読み、議論することを通して、効果的な英語教授法に関する知見を深める。また、個人差や教材、学習活動の性質などが第二言語学習に与える影響を学ぶことを通して、研究知見の効果的な学習指導への応用について考察する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABALF2	英語教育学XIB	1	1.0	1・2					本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生に対して、英語教育学の理論および実証研究を概観し、研究および実践上の指導的役割を果たし得る学識と能力を培う内容を講義する。特に本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、理論的および実証的研究成果や知見をもとに、学習者の言語や認知的な発達をふまえた言語能力および伝達能力の教授可能性や方法論を考察する。	14条対応学生のみ履修可 西暦偶数年度開講 西暦偶数年度開講。 14条対応
OABALF3	英語教育学XIIA	1	1.0	1・2	春AB	月2	小泉 利恵, 土方 裕子		本講義では、英語教育学で用いるテストやアンケートを適切に作成し、分析し、使用するためのプロセスや、言語テストを用いた評価についての理論と実践を学んでいく。特に、大規模テストや教室内テスト、また研究で用いる筆記テスト(リスニング・リーディングテスト)の妥当性の検証方法や、妥当性に影響を与える要因などを概観し、英語コミュニケーション能力を高めるための評価、またそれを実現するために必要な教員養成・研修のあり方などについて、講義と討論を通して、検討していく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンラインダイヤモンド、リアルタイム配信)で行うこともある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALF4	英語教育学XIIB	1	1.0	1・2	秋AB	月2	小泉 利恵		本講義では、英語教育学で用いるテストやアンケートを適切に作成し、分析し、使用するためのプロセスや、言語テストを用いた評価についての理論と実践を学んでいく。特に、大規模テストや教室内テスト、また研究で用いるパフォーマンステスト(スピーキング・ライティングテスト)の妥当性の検証方法や、妥当性に影響を与える要因などを概観し、英語コミュニケーション能力を高めるための評価、またそれを実現するために必要な教員養成・研修のあり方などについて、講義と討論を通して、検討していく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンラインダイヤモンド、リアルタイム配信)で行うこともある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALH1	英文法研究I	1	1.0	1・2					英語学/言語学に関する文献の読解演習を通して、英文法・英文読解方法を学びながら、英語の様々な構文と対応する日本語構文との比較・対照から見えてくる「英語らしさ/日本語らしさ」について考察する。	西暦偶数年度開講。 対面

OABALH2	英文法研究II	1	1.0	1・2	春AB	火5	山村 崇斗, 宮腰 幸一	形態統語的な観点から史的英語の文法的特徴に触れ、英語の成り立ちを観察すると共に、生成文法理論の観点も取り入れ、言語にみられる普遍性について考える。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALJ1	英語圏の文化・文学I	1	1.0	1・2				英語圏の中でもとくにイギリスを中心とした文化・文学について学ぶ。イギリスの文化・歴史について書かれた文献によって基本的な全体像をつかむ。本年度は、イギリスの文学作品や関連資料を読み、英語についての知識を深めると同時に、文化的・思想的背景について考察する。授業は演習形式で行い、自らの思考を的確に表現できる力を養成する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABALJ2	英語圏の文化・文学II	1	1.0	1・2	秋AB	木3	馬籠 清子, 竹谷 悦子, 山口 恵里子	19世紀後半から現在までに英語圏で出版された短編小説を読みながら、文学表現の特徴、文化的・社会的コンテキストとの関係、文学と文学以外の芸術とが交差する際に生まれる効果などに注目する。柔軟な視点と丁寧な分析を重視し、履修者がお互いの作品理解を紹介し合いながら、読みの可能性を探っていく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABALK1	英語教育学特講 I A	1	1.0	1・2					西暦偶数年度開講。
OABALK2	英語教育学特講 I B	1	1.0	1・2					西暦偶数年度開講。
OABALK3	英語教育学特講 II A	1	1.0	1・2	春C	集中			西暦奇数年度開講。
OABALK4	英語教育学特講 II B	1	1.0	1・2	春季休業中	集中	小泉 利恵		英語で授業。 オンライン(同時双方向型)
OBALL1	英語教育学演習I	2	1.0	1・2				本講義では演習形式を中心として、「特定目的の英語 (English for specific purposes: ESP)」のうち「研究出版目的の英語 (English for Research Publication Purposes: ERPP)」について学ぶ。受講者が主体的にチームティーチングの演習を行い、Academic Writingの知見や指導の仕方について、理解を深める。	西暦偶数年度開講。 対面
OBALL2	英語教育学演習II	2	1.0	1・2	春AB	木3	柳沢 明文	本講義では演習形式を中心として、「特定目的の英語 (English for specific purposes: ESP)」のうち「研究出版目的の英語 (English for Research Publication Purposes: ERPP)」について学ぶ。受講者が主体的にチームティーチングの演習を行い、Academic Writingの知見や指導の仕方について、理解を深める。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALM1	英語教育学演習III	2	1.0	1・2				本講義では、効果的な評価を通して英語授業の改善を図ることを念頭に、テストや評価の理念や方法を、実践演習を通して学んでいく。評価計画の立案や、パフォーマンステスト・評価の作成や分析、活用の体験を通して、コミュニケーション力を高めるための評価の理論と実践について学んでいく。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型) 授業形態(オンライン・対面など)については、開講1週間前までに、manabaで通知する。
OABALM2	英語教育学演習IV	2	1.0	1・2	秋AB	応談	平井 明代, 小野 雄一, 小泉 利恵, 土方 裕子, 柳沢 明文, 末森 咲	本講義では、教育現場での実践を前提とし、CLILや心理要因に特に着目する。まずCLILについて概観した上で、英語の授業にてどのようにCLILを取り入れることができるか、模擬授業を通して検討する。また、学習者の自律や動機づけの観点から、目標設定や振り返りの機会を授業内で取り入れる方法についても学ぶ。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型) 対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。詳細はmanabaにて通知する。
OABALN1	英語教育学演習V	2	1.0	1・2				スピーキングやライティング技能のパフォーマンス指導と評価に関する論文を読み、基本的な知識を養うことを目標とする。また、討議や調査を通して、さまざまな指導や評価に関わる問題点を考察し、授業内でどのように生かせるかを学ぶ。パフォーマンス技能の指導・フィードバック・評価、批判的思考力の育成、要約やAIの利用などに関するテーマを扱う。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンラインに変更する。 Manabaで通知する。 西暦偶数年度開講。 対面

OABALN2	英語教育学演習VI	2	1.0	1・2	春AB	月4	平井 明代	本講義では批判的思考力に関連する実践演習を中心に、技能統合タスクやパフォーマンスタスクの指導の実践および評価を行っていく。実際にタスクやテストを作成し、授業で使用し、評価を行う練習をする。教師役と生徒役の立場に立ったときのフィードバックや内省、評価得点の分析や生徒への還元の方法について議論する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABAL01	英語教育学演習VII	2	1.0	1・2				毎回優れた授業実践事例について、担当者が発表を行う。その上で、討論を行い、望ましい授業をデザインする。具体的には、英文の内容を理解するだけの英語授業でよいのか、内容理解の先に批判的検討や意見交換がある授業、英語で議論できる教育、グラフィック・オーガナイザーを用いた内容理解活動、クリティカル・リーディングの授業、批判的思考力の測定、英語が苦手な学生がスピーチを楽しむ、授業実践例、生徒が身を乗り出してくるタスクとは、などを取り扱う。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABAL02	英語教育学演習VIII	2	1.0	1・2	春AB	火2	小野 雄一, 末森 咲	教育工学やCLILを取り入れた授業実践について学んでいく。論文を通して、現在の傾向を学ぶと共に、どのように実践に取り入れていくことが可能か検討する。最終的にそれぞれの観点から、発表を行う。	西暦奇数年度開講。 対面
OABALP1	英語教育学演習IX	2	1.0	1・2				「特定目的の英語 (English for specific purposes: ESP)」では、学習者のニーズや言語サンプルを調べる「ニーズ分析」を実施し、それに基づいてコースを設計することが必要である。本講義では、ESPコースの実例を調査し、ESPのコース設計に必要な過程と手法を修得する。受講者の興味に応じて業種別のグループに分かれ、ESPのカリキュラムを作成する演習を行う。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 対面
OABALP2	英語教育学演習X	2	1.0	1・2	春AB	金2	土方 裕子	本講義では「特定目的の英語 (English for specific purposes: ESP)」のうち「職業目的の英語 (English for occupational purposes: EOP)」を対象とし、EOPプログラム設計の基盤となる「ニーズ分析」をテーマとして取り上げる。受講者の興味に応じて業種別のグループに分かれ、EOPのカリキュラムを開発する前提でニーズ分析を行う。その結果を踏まえて、EOP研修用のテキストを作成する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALQ1	英語教育学演習XI	2	1.0	1・2				本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に、講義、演習、発表、討論、演示、授業参観など、多面的な学習活動を結合した形で展開する。マイクロ・ティーチング(模擬授業)の機会を多く取り入れながら、オーラル・イントロダクション、発音指導、4技能の指導と統合的指導、コミュニケーションな言語活動、指導案の作成、教科書の活用、発問スキルにもふれる。	西暦偶数年度開講 14条対応。 西暦偶数年度開講。 14条対応
OABALQ2	英語教育学演習XII	2	1.0	1・2	秋AB	火2	小泉 利恵	本講義では、効果的な評価を通して英語授業の改善を図ることを念頭に、教室内で行うテストや評価の理念や方法を、実践演習を通して学んでいく。指導案や評価計画の立案や、テスト・評価の作成や分析、活用の体験を通して、コミュニケーション力を高めるための形成的評価の理論と実践について学んでいく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンディマンド、リアルタイム配信)で行うこともある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALS1	英語教育学研究IA	2	1.0	1・2				本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IAでは、国内外の文献研究を中心に検証し、討議しながら進めていく。	各教員の主指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。
OABALS2	英語教育学研究IB	2	1.0	1・2				本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IBでは、英語教育学研究IAで修得した専門知識をさらに深化させ、問題意識を研究テーマとして発展させることを目指す。	各教員の主指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)

OABALT1	英語教育学研究IIA	2	1.0	1・2	春AB	応談	平井 明代,小野雄一,小泉 利恵,土方 裕子,末森 咲,柳沢 明文	本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIAでは、研究テーマをもとに、仮説およびリサーチデザインの立て方および研究の遂行について学ぶことを目指す。	各教員の主指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦奇数年度開講。対面
OABALT2	英語教育学研究IIB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	平井 明代,小野雄一,小泉 利恵,土方 裕子,末森 咲,柳沢 明文	本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIBでは、英語教育学研究 IIAで学んだ研究手法をもとに、研究の成果をまとめることを目指す。	各教員の主指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦奇数年度開講。対面
OABALU1	英語教育学研究IIIA	2	1.0	1・2				本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIIAでは、国内外の文献研究を中心に検証し、討議しながら進めていく。	14条対応の各教員の主指導学生に限る。西暦偶数年度開講。14条対応。オンライン(同時双方向型)
OABALU2	英語教育学研究IIIB	2	1.0	1・2				本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIIBでは、英語教育学研究IIIAで修得した専門知識をさらに深化させ、問題意識を研究テーマとして発展させることを目指す。	14条対応の各教員の主指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦偶数年度開講。14条対応。対面
OABALV1	英語教育学研究IVA	2	1.0	1・2	春AB	応談	平井 明代,小野雄一,小泉 利恵,土方 裕子,末森 咲,柳沢 明文	本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IVAでは、研究テーマをもとに、仮説およびリサーチデザインの立て方および研究の遂行について学ぶことを目指す。	各教員の主指導学生に限る。必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型。西暦奇数年度開講。14条対応。オンライン(同時双方向型)
OABALV2	英語教育学研究IVB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	平井 明代,小野雄一,小泉 利恵,土方 裕子,末森 咲,柳沢 明文	本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IVBでは、英語教育学研究 IVAで学んだ研究手法をもとに、研究の成果をまとめることを目指す。	各教員の主指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦偶数年度開講。14条対応。対面
OABALX1	英語教育学論文演習I	2	1.0	2	春AB	応談	平井 明代,小野雄一,小泉 利恵,土方 裕子,末森 咲,柳沢 明文	本科目は、授業担当者が、自ら指導する学生に対して行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、その指導および習得に関して、文献および実証的・実践的な研究を行い、英語教育学についての修士論文執筆を完成させるために必要な、明確な目的意識の涵養と博士論文執筆に関するスキルの修得を目的とする。英語教育学論文演習Iでは、研究倫理に関する知識の確認、専門知識の深化、論文執筆や研究成果の公開等に関わるスキルを演習形式で修得することを目的とする。	各教員の主指導学生(主として2年次)に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。主専攻必修科目。対面

OABALX2	英語教育学論文演習II	2	1.0	2	秋AB	応談	平井 明代, 小野 雄一, 小泉 利恵, 土方 裕子, 末森 咲, 柳沢 明文	本科目は、授業担当者が、自ら指導する学生に対して行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、その指導および習得に関して、文献および実証的・実践的な研究を行い、英語教育学についての修士論文執筆を完成させるために必要な、明確な目的意識の涵養と博士論文執筆に関するスキルの修得を目的とする。英語教育学論文演習Iを受け、この英語教育学論文演習IIは考察した成果を論文としてまとめ、完成させる技術の修得をめざす。	各教員の主指導学生（主として2年次）に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン（オンデマンド、リアルタイム配信）に変更することもある。主専攻必修科目。対面
OABALZ1	英語教育学プロジェクト演習 IA	2	1.0	1・2				この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。西暦偶数年度開講。オンライン（同時双方向型）
OABALZ2	英語教育学プロジェクト演習 IB	2	1.0	1・2				この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。西暦偶数年度開講。オンライン（同時双方向型）
OABALZ3	英語教育学プロジェクト演習 IIA	2	1.0	1・2	春ABC	応談	平井 明代, 小野 雄一, 小泉 利恵, 土方 裕子, 末森 咲, 柳沢 明文	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン（オンデマンド、リアルタイム配信）に変更することもある。西暦奇数年度開講。対面
OABALZ4	英語教育学プロジェクト演習 IIB	2	1.0	1・2	秋ABC	応談	平井 明代, 小野 雄一, 小泉 利恵, 土方 裕子, 末森 咲, 柳沢 明文	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン（オンデマンド、リアルタイム配信）に変更することもある。西暦奇数年度開講。対面